

# アート作品 触って体感

岡山で博覧会 彫刻や絵画170点



無数につり下がったナイロンの滑らかな感触を楽しむ子どもたち

触って体感できるアートを並べた「ユニの大博覧会」(岡山)

バーサル・ミュージック放送主催)が1日、同焼、木彫、点字絵本な

歓声を上げていた。同展は新型コロナウイルス禍で「非接触」が日常になる中、触覚の大切さを再認識しようと国立民族学博物館(大阪府)が2021年に開き、今回は初の地方巡回展。名画を立体化した作品や備前

放送本社KURUN HAL(岡山市北区下石井)で開幕した。岡山県立大の島田清徳教授のインスタレーションは、暗くした部屋にナイロンを無数につり下げており、子どもらは両手を広げて通り抜けながら、滑らかな素材の感触を楽しんでいた。朝日塾小4年

小橋平汰君(9)は「自由に触れられるのが新鮮。暗い中で形を想像しながらなでるのはドキドキした」と話した。同展の企画者で全員の広瀬浩二郎・同博物館教授(文化人類学)は「人は視覚に頼りがちだが、触れなければ分からないこともある。感覚の多様性に気づいてほしい」と呼びかけていた。5月7日まで。月曜休館。(船越元洋)

さんデジに動画



(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。